

千葉開府900年の年に・・・その 2

近代日本の歩みの中の千葉

<1> 大きな方向転換の始まりか

鉄砲伝来(種子島:1543年)、徳川家康はこの頃に生まれた。

フランシスコ・ザビエルの上陸(1549年)あたりから、我が国は大きな方向転換を迫られる状態になってきた。国内では権力争いが進んでいたが、同時に国外からの様々な刺激が投入されて来始めた。そんな中で、先進的な藩では西洋の事情を知り、それを学ぶ動きが顕著になってきた。そのひとつの事例として、佐倉藩では、西洋の学術(蘭学)の導入を奨励し、我が国の開国に向けた基盤作りに力を入れていた。そのひとつが「西洋砲術の研究」だった。

日本史の中の大きな分岐点になるようなできごとが、我が家から近い所で動き始めていた。

これが、明治維新を経たのちに「軍国」の始まりにもなり、結果的には、千葉が軍都になることの始まりになってしまった。

●木戸場と大土手山探訪の記 <http://www.l.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/kidoba.pdf>

<2> 富国強兵・殖産興業

下総台地は、野馬が走る牧だったが、明治維新を機に大きな変化が起きた。

士農工商、武士が世の中を動かす社会が、明治に入り一変した。上級の武士たちはそれぞれ上手い場所を見つけて収まったものの、数多くの下級武士たちはぶら下がり先がなくなり、失業者となった。政府はこの窮民対策として、下総の牧の開墾事業を起こした。

明治政府の主要政策のひとつ「殖産興業」が進められたのだが、もうひとつの政策「富国強兵」も動いていた。

●下総台地の160年 <http://www.l.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/shimo160.pdf>

<3> 軍都千葉が行きついた所

下級武士の窮民対策として行われた「下総の牧の開拓」が進む中で、陸軍演習場の開設も進んだ。

現在の総武線沿線を南限として、市川・松戸・柏・佐倉・四街道を結ぶ広いエリアが演習場またはそれに関係する陸軍の施設になり、その中核には鉄道連隊が率いる軍用鉄道も走るようになった。

そして、いつの間にか、千葉は国策の中核にいる軍都になった。

いつの世も同じだが、戦争は決して幸せを運んでは来なく、「不幸せ」を沢山運んでくることになった。

●千葉から戦争を考える その1 <http://www.l.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/senso1.pdf>

●千葉から戦争を考える その2 <http://www.l.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/senso2.pdf>

<4> そして昭和20年8月15日

陸軍演習場と軍の施設、軍用鉄道も不要になった。

下総の台地は、「食糧確保」の国策に沿って、農地にするための開拓が行われることになった。

演習場だった場所・軍隊の施設があった所・荒地だった所などを農地として整備するのは大変な作業だったに違いない。

開拓地に入ったのは、旧軍隊の関係組織が多かったので、その後の街づくりにも様々な影響を与えたようだった。苦勞して敷設した軍用鉄道はほとんどが撤去されて、民間の鉄道として活用されたのは京成松戸線（旧称：新京成線）だけだった。

●陸軍演習場から生まれた町あれこれ

<http://www.l.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/enshujo.pdf>

●陸軍演習場から生まれた町<続編>

<http://www.l.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/okmark.pdf>

<5> がんばれ千葉！ がんばる千葉！

過去を振り返るだけでは明るくなれない。

次の時代に向かって

●千葉よ浦和に負けるなよ（千葉の「千葉」から 千葉を振り返る）

<http://www.l.u-netsurf.ne.jp/~TKOB/chibada.pdf>

以上